

# 平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業名	流山おおたかの森駅前市有地活用事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	O1	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	誘致推進課				
施策	1-2	地域特性に合った良好な市街地整備	主管課長	大津 真規				

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	流山おおたかの森駅周辺	意図	市の新拠点として発展する。
事業内容	本市の新拠点を形成するために、民間活力を活かした事業手法により、流山おおたかの森駅前市有地に行政・文化・商業・業務など複合的な機能を持つ施設を整備する。導入機能、事業スキーム及び事業条件等の検証を行った上で事業者の公募、選定を行い、施設を整備した後、市有地の一部と等価交換する。			
事業開始から現在までの状況変化	平成23年度に「市有地活用基本方針」を策定。平成26年度に公募支援業務の受託者を選定し、「実施方針」を策定するとともに外部有識者等5名で構成する「事業者選定委員会」を発足した。平成27年度に優先交渉権者を決定し、基本協定並びに事業契約を締結し、平成28年度に設計図書の作成、財産交換・地代減免に関する議会の承認を得て建設工事に着手した。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
①	建設工事着手面積率	0	38.90	100	%	↑↑↑	建設工事着手面積/10,145㎡全体面積	
②	流山おおたかの森駅周辺人口	22,422	25,952	28,840	人	↑↑↑	駅から半径1km内の大字の住民基本台帳人口（年度末）	
③	TX流山おおたかの森駅1日当り乗車人数	33,135	34,702	36,644	人	↑↑↑	TXホームへ「ジ」から数値取得	
④	東武流山おおたかの森駅1日当り乗車人数	26,855	27,619	27,717	人	↑↑↑	東武鉄道ホームへ「ジ」から数値取得	
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果	流山おおたかの森駅周辺における賑わいの創出と交流人口の増加。				目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ・各事業施工者と工事進捗や事業内容等の協議調整を進め、公共施設の平成30年12月の工事完了、平成31年3月の施設引渡しに向けて事業を進めている。 ・庁内関係部署とホール開館や窓口センターの開業に向けて協議調整を行うほか、北口駅前広場などの関連工事も予定している。 ・各施設間の共用部分であるペDESTリアンデッキ等の管理協定を各事業施工者間で結ぶため協議中。			
事務事業のコスト		平成27年度	平成28年度	平成29年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		11,295,000	10,297,500	10,068,000				
事業費(b)(円)								
うち一般財源								
職員給与費(c)(円)								
人役・職員(人)		1.50	1.50	1.50				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	C 必要性は低下すると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H29)の改善計画	工事の進捗に伴い関係者との調整や仕様の確認などを行う。公共施設の開業に向けての準備を支援する。	③取組の課題	工事竣工、施設の引渡しに向けて、最終的な手続きを行う。
②今年度(H29)に実施した取組	工程調整会議に参加し、全体の調整を行った。関係各課と施設開業に向けての協議調整を行った。	④今後(H30以降)の改善計画	公共施設が開業し、市の新たな交流拠点として市内外に情報を発信する。